

るのは早計で、むしろ倉庫の機能の櫓であるため内部を描いていないと考えるべきであろう。他の資料でも到來櫓の内部間取り等については情報がない。

到來櫓の東端部は、平成 9 年度の第 1 次発掘調査でトレンチを入れているが、局部的なこともあるってか、櫓建物に直接結びつくような構造は検出されていない。

以上のことから、今回整備では櫓 1 階の平面規模と外周柱位置だけを表示することとした。

### (3) 本丸南面仕切石垣跡

備中櫓から長局にかけての北側に位置し、建物と平行に東西に長く延びる石墨状の施設で、西端は北に折れて天守曲輪東面仕切石垣の南東端に取付き、東端も北に折れて本丸御殿台所の南西端に達していた。本丸御殿奥向の南庭を取り囲む区画施設で、両面に石垣を築いた上に土塀を廻らせていた。

この仕切石垣は、享保 10 年（1725）の『津山御城絵図』に描かれており、文化 6 年（1809）の本丸火災まではそのまま存続したようである。火災後再建の本丸御殿を描いたと考えられている『津山城之図（文化七年庚午牛御普請出来之図）』にも、部分的描写ながらこの石垣の存在が確認できる。ところが、天保年間作成とされる『御城御座敷御絵図面』では石垣がなく、その場所に新たなる建物群が出現している。この図は一部計画案にとどまった可能性が残るが、そこに見られる化粧之間のものと考えられる礎石が備中櫓跡北側の発掘調査で出土しており、廃城時の様子を伝える『津山温知会誌付図』でも仕切石垣は存在しない。

仕切石垣が撤去されたのは天保 11 年（1840）とされ、復元対象時期である本丸火災以前の備中櫓は、この石垣と併存するのが本来の姿ということになる。

平成 12 年度の第 4 次発掘調査では、仕切石垣西端の L 字状部分の基礎栗石が幅約 2 m、南北 9.5 m、東西 12 m にわたって検出された。文化 5 年（1808）の『御城御座敷向懸絵図』に描かれた様相とよく一致しており、寸法関係も周辺の状況と矛盾しないことから、今回整備ではこの資料を基本に表示の位置を決定した。

この絵図には石垣の「巾四尺」とあり、廊下や建物による中断区間の距離なども注記があるが、石垣高については記載がない。手掛かりとしては、石垣北西端の五番門に對する位置の東側に「段四ツ」があることで、これは石垣上面に至る石段とみられる。蹴上寸法は最大で 1 尺程度であろうから、5 段分で計 5 尺以内が石段の高さと推定される。石垣上の土塀は長辺で南を表にし、備中櫓や長局に面する形となっていた。



津山御城絵図（部分・「津山城資料編」より）



御城御座敷御絵図面（部分・「津山城資料編」より）

### 3. 工事の概要

#### (1) 整備工事の規模

長局跡平面表示：東西 41.370 m、南北 5.293 m

到來櫛跡平面表示：東西 7.316 m、南北 6.895 m

長局跡柱割表示：東西 40.300 m、南北 5.240 m

到來櫛跡柱割表示：東西 8.216 m、南北 7.590 m

仕切石垣：5 区間、合計延長 40.330 m、石階段 1 ケ所（4 段）

管理区画柵：延長 5.0 m

転落防止柵：延長 48.7 m、管理門（幅 3.0 m）1 基、同（幅 2.0 m）1 基

園路舗装：

ライトアップ施設：2 灯 × 2 基、分電盤 1 基、管路埋設 267 m

橋中槽入口天幕：1 基

既存ベンチ改修：9 基

解説板：1 基

#### (2) 整備工事の過程

工事の施工は、平成 17 年 8 月 5 日より着手し、平成 18 年 3 月 17 日に竣工検査を完了した。実質工期はおよそ 7.5 ヶ月であった。

工事の統括は津山市教育委員会文化課、設計監理は㈱文化財保存計画協会、工事施工は相互建設㈱が行った。

工事工程表は以下の通りである。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
共通仮設		■	■			
土工事		●	●			
撤去工	●	●				
建物表示工		●	●	●	●	
長局柱割表示工		●	●	●	●	●
門・柵工		●	●		●	●
舗装工		●	●	●	●	●
排水工		●	●		●	●
便益施設工	●	●				
仕切石垣表示工				●	●	●
電気設備工				●	●	●
橋入口天幕設置工					●	●
雨落と縁石改良工				●	●	
既存雨落溝有孔管設置工				●	●	

### (3) 整備工事の概要

#### (a) 長局跡・到来橋跡平面表示

『御城御座敷向懸絵図』に従い、室内の間取りおよび柱位置を平面表示した。

外壁、部屋境、間仕切建具は特に区別せず、いずれも桜御影石縁石（幅120mm）で表示した。北縁および廊下の端部、土間境、押入境は同じ縁石ながら、幅を90mmとした。長局室内の床面は、畳敷範囲を自然石樹脂舗装（透水性コンクリート基盤t 80 + 表層t 10）、縁を含む板敷部分を土ブロック（マサブロック 200 × 100 × 60）、土間部分を土系舗装（ロードマサ t 40）として区別した。仕上面はいずれも同一で、表示部分に段差等は設けていない。

到来橋については、室内の間取りや柱位置が不明なため、外周以外は一面自然石樹脂舗装とした。ただし、使用する自然石の色調を長局と違えることで、差異を表現した。

柱位置の表示は錫御影石（150 × 150）とした。大半の箇所は後述の柱割表示と重複するが、柱足元にも表示石を設置している。

平面表示の設置にあたっては、石垣上面付近まで表土を漉き取り、砕石基礎の上に舗装を施している。このため、石垣天端上では最小でも200mmの立ち上がり面が生じている。ここは遮水シートにて天端石と縁切りした上、小口から上面にかけてはカラーモルタルにより周囲の景観になじませるようにした。長局の西端は備中槽に直結するのが本来の姿だが、今回の長局平面表示をそのままの高さで備中槽復元建物まで延長すると復元建物の外観を損ねることになる。そのため、表示の嵩上げ面は備中槽東面の雨落溝までとし、ここで段差を設けてこれより備中槽寄りは既存の犬走り面内に縁石と舗装を施すこととした。また、長局北縁の西端から備中槽北縁に達する渡り廊下の表示については、上面レベルに傾斜を設けて備中槽雨落溝縁石にすり付けとした。

建物跡平面表示と周囲の舗装仕上面には60mmの高低差をつけ、表示の北辺に沿って幅500mmの砂利敷帯を設けた。これらの建物に関する雨落溝等の施設は出土していないが、おおよその軒下範囲を示すとともに、園路の排水処理にも寄与するようにした。

なお後述するが、平面表示範囲内に既存の藤の木5本があり、それらの周囲は玉石で囲って舗装範囲から除外してある。根周りにはウッドチップを散布したほか、ベンチ（既存品を改修）下を利用して角型グレーチングを設置し、ここから栄養剤等の注入ができるようにしてある。

#### (b) 長局跡・到来橋跡柱割表示

古写真にも見られるように、津山城本丸の南面は、備中槽から長局、到来橋に至る各建物が長く一連を成し、特徴的な景観を形成していた。備中槽は復元建造物として旧觀を回復したが、さらに長局、到来橋の存在を視覚的にも顕在化させることで、往時の景観を彷彿させる目的で、これら建物の立体表示を計画した。

一方、本丸南端部には、以前からコンクリート製の藤棚があって、藤の木の大半にあたる5本が今回平面表示を行った範囲内に位置している。この藤は当然明治以後の植樹になるものであるが、既に県下でも有数の古木を含んでおり、本丸では貴重な樹陰として市民にも長年親しまれてきたため、老朽化した藤棚を撤去・更新し、藤の木自体は存続させることとした。

これら2つの意図を両立させる方策として、柱割を長局の推定柱位置に合わせることで長局の立体表

示とし、それが藤棚を兼用することで、文化庁の承認を得た。

平面表示の場合と同様に、備中櫓との取り合いが問題となるが、長局の所在や規模を視覚化する上で大きな影響がないとの判断で、西端1間を立体表示範囲から除外することとした。

柱剝表示の本体は木造で、平面表示の層厚さ内に納まるようにベースプレートを設置し、金物で柱脚とボルト固定する構造とした。柱は150角の檜材で、基本的には本来の長局・到来櫓柱位置に合わせて配置している。ただし、柱間隔が非常に近い箇所や補助的な柱については煩雑になりすぎるため省略し、柱位置の平面表示のみとした。逆に、本来の柱間隔が広すぎて構造的に問題がある箇所には柱を追加している。この場合、当然柱位置表示ではなく、さらに柱形状を150φの円柱として柱剝表示との区別を明確にした。

柱上部に桁と梁を架し、その上に単管パイプを縦横に配して藤棚を兼ねさせている。木材は低公害防腐剤を加圧注入した材を用い、仕上に浸透性保護着色塗料（キシラデコール）を2回塗りした。単管は溶融亜鉛メッキ仕上とした。

#### (c) 仕切石垣表示

長局と本丸御殿中枢部とを隔てる仕切石垣の表示範囲は、コの字状の全体から東辺を除く、南と西の2辺とした。東辺を今回整備から除いた理由は、本丸内部の排水勾配が全体に南東に向かっており、仕切石垣以北が未整備の現状で東辺を作った場合、表流水をせき止めてしまうことが懸念されたためである。

平面規模は絵図の記載に従い、途中の中断部分も忠実に表現した。あくまで表示であるため、本格的な石垣ではなく、300角内外の凝灰岩（兵庫県産竜山石、ノミ切り仕上）を2段空積みし、整備面からの高さは400mmにとどめている。両面石垣の間には客土を充填し、サツキツツジとクルメツツジの混植による生垣（h 600mm）を設けた。これは、仕切石垣が西側で備中櫓管理区域の区画施設を兼ねる一方、視界を遮ることで防犯上の死角を作らないよう配慮した結果である。

石垣北西端部には絵図通りに石段4段を設けた。段差はわずかで、これもあくまで表示として設けたものである。

#### (d) 管理区画施設

備中櫓復元建物に対する防犯・防災上の措置として、同建物への導入部にあたる本丸南西端の一部を管理区域として区画し、公開時間外は施錠して侵入を規制することとした。なお、復元建物の直近外部には赤外線による侵入感知センサーを既に設置しており、これと区画施設による二重の防犯ラインとなる。

管理エリアの南面は復元建物本体と石垣によって区画されるため、新たに区画施設を設ける必要があるのは東・北・西の三面である。このうち、北面については上記の仕切石垣表示（植栽帯）で区画施設を兼ねる計画とした。仕切石垣の途中には中断区間があるが、ここに出口があったかどうかは不明なため、簡易な構造の金属製横門で区画することとした。管理区域の東端は、元々堀などの区画施設がなかった位置であり、新設の区画であることを明示するためにこも簡易な構造の金属柵を用いることとした。通路部分は同意匠の柵門とし、いずれも景観に配慮して高さを抑えたものとした。

造構保護上、地中への掘り込み設置ができないため、舗装厚の内部にプレキャストコンクリート基礎を設置し、柵・門ともにベースプレートを介して鋼製グリッドフェンス製品（亜鉛アルミ合金メッキの

上、アクリル樹脂塗装仕上）を固定した。

一方、管理区域の西端については、前章で述べた通り、五番門跡の表示を兼ねた管理門を別工事にて新設した。

#### (e) 園路舗装・その他

長局跡表示と仕切石垣に挟まれた園路部分は、碎石路盤の上に土系舗装（ロードマサ t 40）を施した。今回整備範囲は仕切石垣東端の十番門跡から備中櫓北西の五番門跡までである。特に備中櫓北側の一帯は面積も広いため、十分な水勾配を設けて櫓北面の雨落溝に円滑に排水するようにした。

長局跡および到來櫓跡南面の高石垣上端には從来、玉石を積んだ低い土手状の施設が設けられていた。今回、建物跡を表示するためにこれを撤去したことに伴い、転落防止柵を新設して見学者の安全を図ることとした。柵のコンクリート基礎は表示層の厚みの中に納め、1間おきに杉丸太（低公害防腐剤加圧注入材 75 φ）の支柱を立てた上、マニラロープを上下 2 段に通して固定した。

備中櫓については既存の解説板があったが、今回整備に合わせてこれを新設の北側管理門付近に移設した。一方、到來櫓跡の中央付近には、これと同大・同仕様の解説板 1 基を新設した。台座は白御影石本磨き仕上とし、重量軽減のため内部は空洞とした。上面の表示板は陶板（t 13）にフルカラー印刷とし、長局と到來櫓の概要を図・写真入りで解説している。解説板は 2 基とも、今後の整備の進捗に合わせて移設する可能性があるため、舗装面上に単に置いてあるだけである。

#### (f) 備中櫓ライトアップ設備

備中櫓復元建物と五番門南石垣土壠に対するライトアップ設備を新設した。位置は櫓石垣下の二之丸で、櫓から見て南東側と南西側に各 1 基とした。設置位置の詳細は、仮設器具による点灯試験を行い、現地で見え方を確認しながら決定した。灯具はマルチハロゲン 400W 水銀灯（色温度 3800K）× 2 灯を鋼管ポール上に取り付け、安定器箱とともにコンクリート基礎上に設置した。

津山城跡には既存の石垣ライトアップ設備があるが、今回設置の設備はこれとは別系統とし、三之丸の動物園内に分電盤を新設した。そこからの配線は、極力既設配管ルートを利用し、新規の掘削は灯具直近の小範囲だけにとどめた。

灯具の周囲にはサツキツツジによる植栽を施し、周辺景観になじませるようにした。

#### (g) その他

備中櫓復元建物は、御殿から廊下伝いに達する本来の動線ではなく、見学者が北縁から直接床に上がる形となっている。このため、雨天時には縁が濡れ、履物の保管等にも困難があった。これまで入口階段部に仮設テントを設置して対応していたが、折角の復元建物の外観を損なうとともに、強風時にはテントがあおられて建物を損傷することも懸念された。このため、恒久的施設として入口部の軒先に特製の片流れ式天幕を新設することとした。

フレームは鋼製、幕は防炎加工したポリエステル生地製で、ナイロン紐で固定している。柱の基部はアンカーピンで舗装面に固定しているが、強風時等には折り畳み可能な構造となっている。

#### （4）工事関係者

##### 1. 指導・助言

文化庁文化財部記念物課

岡山県教育委員会

史跡津山城跡整備委員会

##### 2. 工事発注者

事業主体：津山市

事務局：津市教育委員会文化課

##### 3. 設計・監理

株式会社 文化財保存計画協会

〒 101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル 13階

Tel : 03-5276-8200

代表取締役 矢野和之

実施設計・施工監理 友田正彦

##### 4. 工事施工

相互建設株式会社

〒 708-0001 岡山県津山市小原 127

Tel : 0868-25-1839

代表取締役 高山尚明

現場代理人 藤木雄介

##### 協力業者

木工事	㈱牧工務店 岡本潤男	(津山市) TEL (0868) 28-1481
-----	------------	--------------------------

石工事	㈱和田石材建設 和田行雄	(大阪市) TEL (06) 6573-0131
-----	--------------	--------------------------

	岸本石材工業㈱ 神野健吾	(岡山市) TEL (086)277-1411
--	--------------	-------------------------

舗装工事	山陽ロード㈱ 青木繁宗	(津山市) TEL (0868) 22-6218
------	-------------	--------------------------

	㈱佐藤渡辺 奥原秋美	(広島市) TEL (082) 241-6100
--	------------	--------------------------

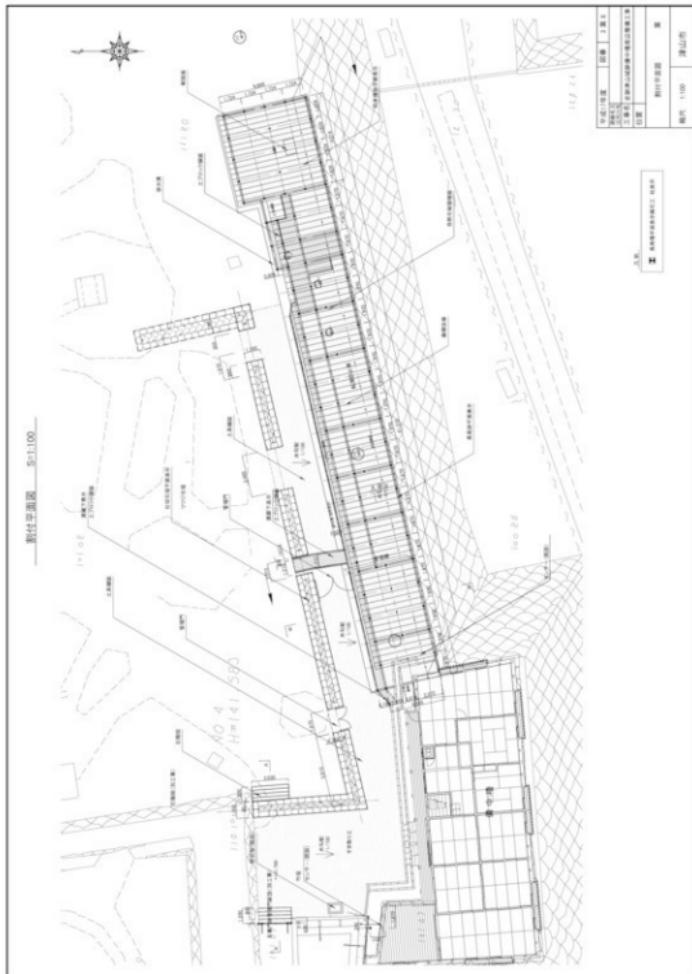
金物工事	㈱山本硝子建材 市佳臣	(津山市) TEL (0868) 22-7671
------	-------------	--------------------------

造園工事	㈱山都屋 河本穰	(津山市) TEL (0868) 38-4178
------	----------	--------------------------

付帯工事	㈱津山テント 河野博宣	(津山市) TEL (0868) 22-8201
------	-------------	--------------------------

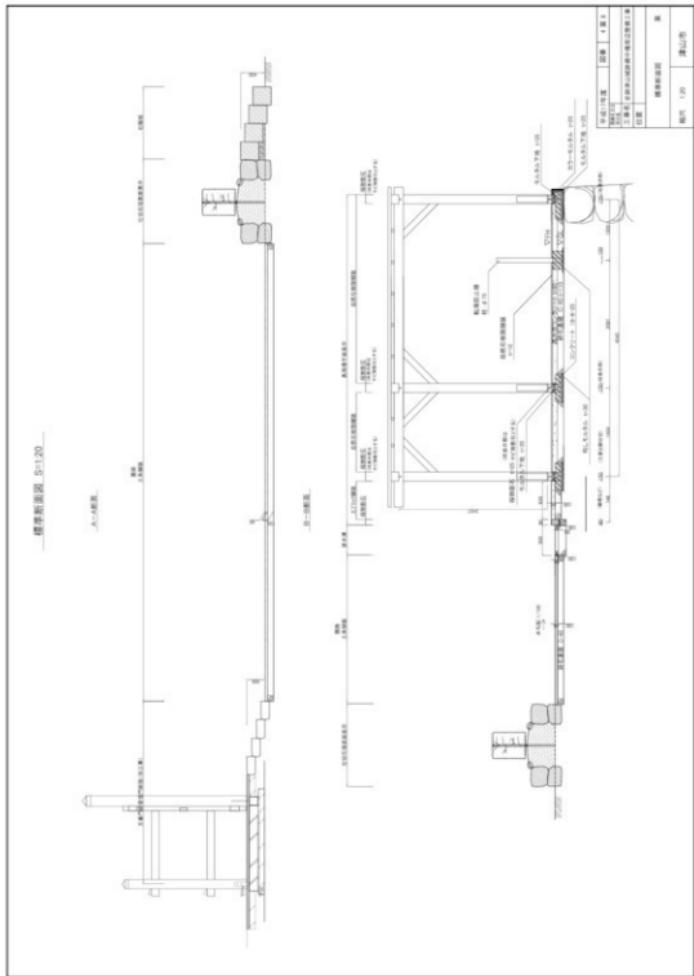
電気工事	㈱片岡電気工事 片岡聖史	(津山市) TEL (0868) 23-5880
------	--------------	--------------------------

### (5) 竣工図面



割付平面図

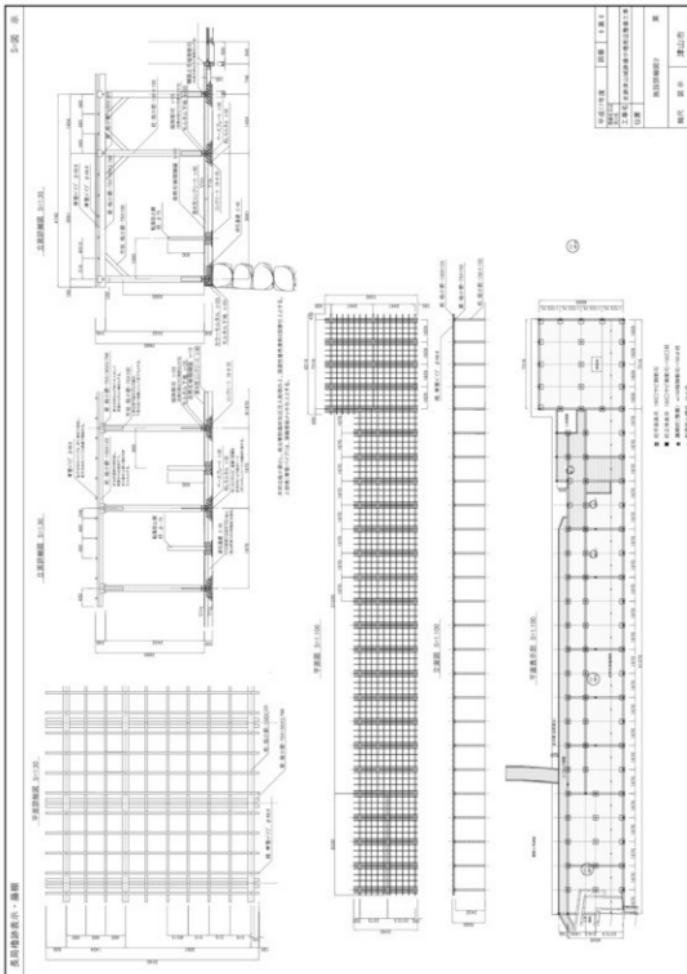
標準測量 S=120



標準斷面圖

仕切石組	5:1:20 土高削減 5:1:10 自然石面削減	5:1:10 無荷重下表面の磨石工 (荷重切) 5:1:10
土フローラック	5:1:10 長用物貯蔵兼磨石工 (荷重切) 5:1:10 5:1:10 5:1:10	長用物貯蔵兼磨石工 (荷重上切) 5:1:10
竹垣	5:1:20 木柵合 木柵合 (荷重切)	5:1:10 5:1:10 5:1:10 5:1:10
排水渠	5:1:10 5:1:10 5:1:10 5:1:10	5:1:10 5:1:10 5:1:10 5:1:10

施設詳細図 1



## 施設詳細図2

(6) 工事写真



着工前



表土除去開始状況



縁石設置状況



柱脚金物設置完了



藤棚撤去状況



柱割表示組立状況



軸部組立完了

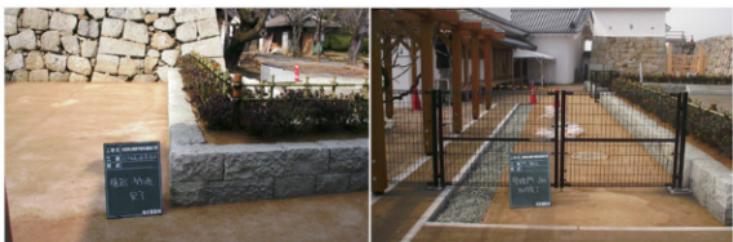


単管取付完了



建物跡平面表示工完了

仕切石垣石材設置完了



植栽完了

管理柵・門設置完了



木部塗装施工状況

土系舗装施工状況



檐入口天幕設置完了

ライトアップ設備試験点灯状況



ライトアップ設備設置完了



長局・到来橋跡表示工竣工



仕切石垣表示工竣工



備中橋ライトアップ点灯状況



備中橋周辺整備工事竣工



## 第4部

### 普及啓発事業の概要



# 第1章 普及啓発事業

ここでは、第1次発掘調査に着手した平成9年度から平成17年度までの間に行われた各種の普及啓発事業についてふれることにする。

また、平成16年4月から平成17年5月にかけて実施された「津山城築城400年記念事業」についても、関連があると判断されるものについては掲載した。尚、同記念事業の概要については、報告書が刊行されている（註1）ので参照願いたい。

## 1 発掘調査現地説明会の開催

発掘調査の成果を広く一般の人に理解していただくために、現地説明会を開催してきた。

以下、調査次数、実施日、参加人数は次のとおりである。

第1次調査 平成10年3月14日 80人

第2次調査 平成11年1月16日 70人

第3次調査 平成12年1月29日 120人

第4次調査 平成12年12月23日 80人

尚、第5次調査以降は、遺構の検出状況等から現地説明会を開催するには及ばないとの判断から実施していない。



第3次調査現地説明会風景

## 2 備中櫓復元整備工事見学会の開催

近年、城郭建造物の復元が各地で行われているものの、工事現場を目の当たりする機会はそうあるものではない。このため、着手から完成までの主要な工程となるべく多くの人に見ていただきたいとの思いから、木組み段階、瓦葺き段階、壁塗り段階の3工程をそれぞれ見学していただくことにした。開催日、参加人数は次のとおりである。

第1回見学会 平成15年3月8日 600人

第2回見学会 平成15年9月6日 500人

第3回見学会 平成16年9月25日 250人

他に工事期間中、約200団体3500人の見学を受け入れている。工事に支障をきたすことも間々あったと思われるが、快く受け入れを許可していただいた工事関係者にお礼申し上げたい。



見学会風景

### 3 特別展・企画展の開催

津山郷土博物館で例年開催されている特別展・企画展は、津山城跡の保存整備事業を意識して開催されたものではないが、結果的に近世資料が多いという館の性格上、津山城関連の展示が大半を占める結果となった。「津山城築城400年記念事業」には、津山洋学資料館、(財)津山社会教育文化財団付設歴史民俗館も協賛した。以下、それぞれの施設での開催状況は次のとおりである。

「城下町のくらし」津山郷土博物館

平成10年3月14日～4月19日

「津山藩と小豆島」津山郷土博物館

平成10年10月10日～11月8日

「津山藩主松平齊民」津山郷土博物館

平成11年3月20日～4月25日

「津山藩の教育」津山郷土博物館

平成12年3月12日～4月16日

「津山城調査速報展」津山郷土博物館

平成13年2月17日～3月27日

「津山藩の江戸屋敷」津山郷土博物館

平成13年10月13日～11月11日

「鉢形蔵斎」津山郷土博物館※

平成16年3月20日～4月18日

「素晴らしい津山洋学の足跡」津山洋学資料館※

平成16年9月19日～11月28日

「戦国武将森忠政～津山城主への道～」津山郷土博物館※

平成16年10月9日～11月14日

「目で見る津山藩の隠された歴史と文化」(財)津山社会教育文化財団付設歴史民俗館※

平成17年1月4日～5月5日

「津山松平藩とその系譜」津山郷土博物館

平成17年3月19日～5月8日



「戦国武将森忠政」展のオープニング



「戦国武将森忠政」展会場風景